

軍人さんのお墓

55期生

I テーマ設定の理由

小学6年生の調べ学習で「お墓調べ」というのをやってみたことがあり、その時、となり町の軍人墓地に行きました。

1つ1つの墓石には、亡くなった軍人さんの軍隊での階級、戦死場所、行年、死亡年月日などが記されていて、私は、今でも田畑の多く残るこの地域からも、たくさんの人が海外のあちこちへ出征して行ったことを知りました。その時、戦死場所の地名が、ほとんど私の知らない所だったので、どんな所か、知りたいと思ったこと等から、このテーマを選びました。(右は磯壁加守墓地、後ろは二上山)

II 研究方法

- ・ 調べるお墓を地図で探す。
- ・ 軍人さんの墓石に記されている情報をかきとめてくる。
- ・ 図書館で、日本のかかわった戦争についての文献を探す。



III 調査・研究内容



1. 調べたお墓の場所（奈良県北葛城郡広陵町と奈良県香芝市）と数（表1）

	陸軍戦死	陸軍戦病死	海軍戦死	海軍戦病死	不明	計
①広陵町軍人墓地	41	17	4	0	3	65
②別所墓地	18	0	4	0	0	22
③共同墓地	16	1	3	0	3	23
④狐井墓地	7	2	2	0	1	12
⑤五位堂墓地	26	0	4	0	1	31
⑥鎌田墓地	14	0	0	0	1	15
⑦磯壁加守墓地	26	6	7	0	6	45
⑧下田墓地	39	0	6	0	3	48
⑨良福寺	10	1	2	0	0	13
⑩阿日寺（ぼっくり寺）	10	2	3	0	2	17
⑪逢坂墓地	6	0	0	0	4	10
⑫西穴虫墓地	1	2	0	0	19	22
⑬北今市墓地	1	2	2	0	1	6
⑭瓦口墓地	9	6	3	0	0	18
⑮畑墓地	0	0	0	0	0	0
計	224	39	40	0	44	347

広陵町軍人墓地は、研究テーマを選ぶ動機となった、小学生の時の調べ学習で行った墓地です。今回、ここだけが軍人さんのお墓ばかりである軍人墓地であり、またここだけが香芝市ではありません。

香芝市には、私の住む真美ヶ丘のような新しい住宅地と戦前からあったいくつかの旧村とがあります。旧村に、それぞれあるお墓を調べました。

2. 軍人さんの死亡場所と死亡時期

調べたお墓347のうち死亡年月日の分かった337人について死亡時期と死亡場所を表にまとめてみました。（表2）

- 表2の①は、1931年（S6）9月18日で、満州事変の勃発した柳条湖事件のあった日。
 ②は、1937年（S12）7月17日で、日中戦争の始まりである盧溝橋事件の日。
 ③は、1941年（S16）12月8日で、太平洋戦争の始まったハワイ真珠湾攻撃の日。
 ④は、1943年（S18）1月1日
 ⑤は、1944年（S19）1月1日
 ⑥は、1945年（S20）1月1日
 ⑦は、1945年（S20）8月15日（8月15日は⑦の線よりも前に入れる）

（表2）

死亡場所	死亡時期	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
日本本土（含東支那海）			2		2	4	10	2	20
小笠原諸島（硫黄島）						2	2		4
沖縄						1	8		9
台湾						1			1
朝鮮			1			1	2	1	5
北太平洋					1				1
満州（含牡丹江）	1		1	1	1	1	3	7	15
中国（含黄海）	1		22	6	4	21	14	16	84
香港				1					1
蒙古						1	2		3
シベリア（ソ連）							1	7	8
太平洋上諸島	マリアナ諸島					12			12
	カロリン諸島					1			1
	大宮島（グアム?）					2			2
	ギルバート				1				1
	ヤップ					1			1
	パラオ・ペリリュー				1	2	1		4
	ミッドウェー			1					1
その他（南方洋）			1			3		1	5
イネンシドア	スマトラ					1			1
	セレベス						1		1
	モルッカ諸島*1					1		1	2
ニューギニア			1	8	15	5		29	
ソロモン諸島*2			2	2	4	2		10	
フィリピン*3			2		6	46	2	56	
ビルマ（緬甸国）			1	1	14	12		28	
インド						12			12
戦没場所不明	1		3		1	2	10	3	20
計	3	0	29	16	22	108	119	40	337

*1…ハルマヘラ島・セラム島を含む。

*2…ブイン島・ブーゲンビル島・ガダルカナル島を含む。

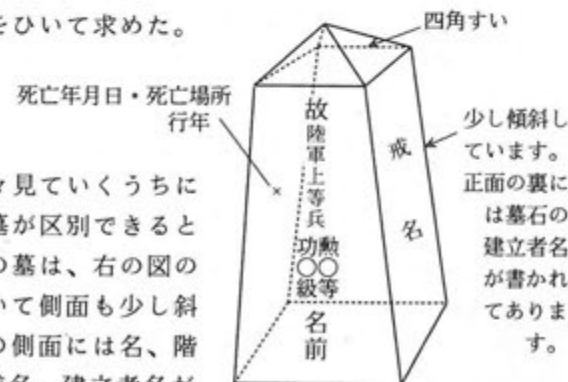
*3…ルソン島・レイテ島・ミンダナオ島を含む。

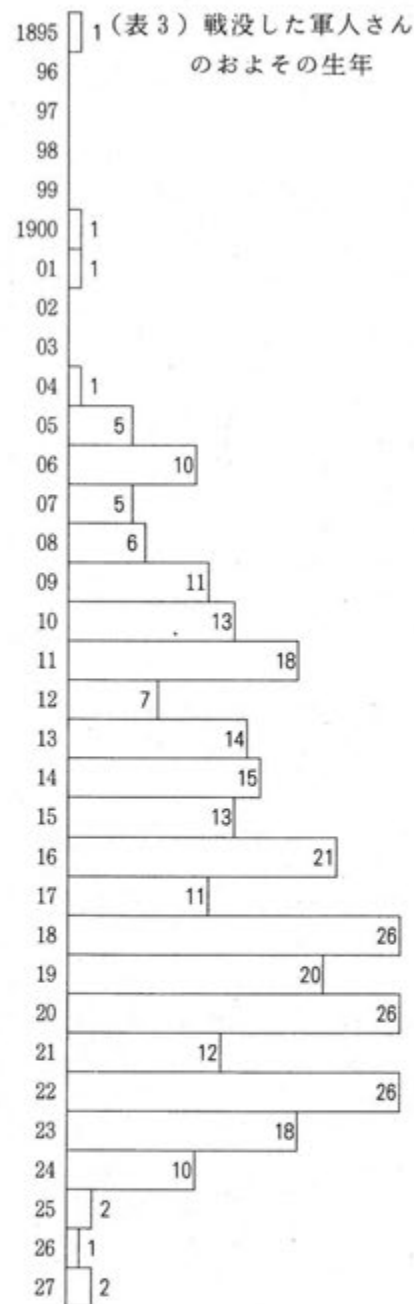
3. 戦没した軍人さんのおよその生年（表3）…次のページへ
 およその生年は、死亡年から行年をひいて求めた。

IV まとめ・結論

1. 墓石について

最初はわかりませんでした。色々見ていくうちに墓石の形で、一般の墓と軍人さんの墓が区別できるということに気づきました。軍人さんの墓は、右の図のようにてっぺんが四角すいになっていて側面も少し斜めになっています。また、墓の4つの側面には名、階級、死亡場所、死亡年月日、行年、戒名、建立者名が





書いてあり、一番多かったのは、正面に階級、氏名が、この左どなりが死亡場所・死亡年月日・行年、右どなりに戒名、裏に墓石の建立者名が書いてあったものです。(下は、阿日寺境内の墓地。)

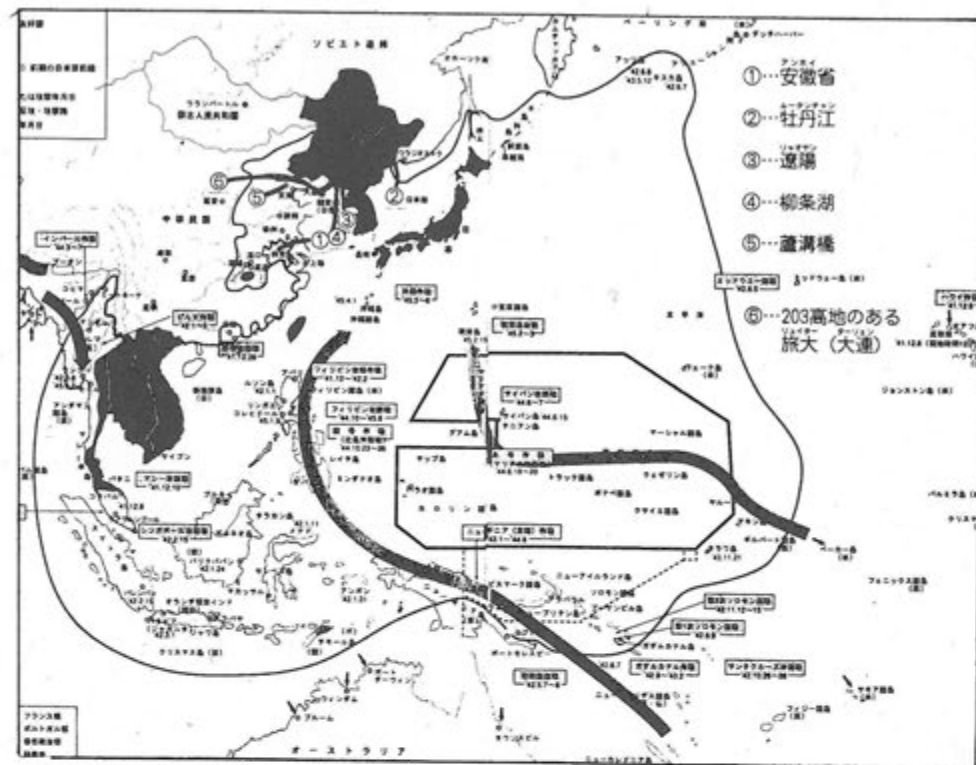


2. 死亡年月日と死亡場所の表からわかったこと。(不明者を除いた321人について)

- (1) 1937年の日中戦争の始まり以前に死んだ人は日露戦争(1904~1905)で死んだ人3人だけでした。3人のうち、2人は明治37年戦死で墓石にも日露戦争と書いてありました。そのうち1人は、有名な203高地での戦死です。最後の1人も、明治38年清国とあったので、日露戦争の関係だと思えます。
- (2) 1944年、1945年で戦死者が激増しています。この2年間は、それぞれ100人をこえています。
- (3) 戦死場所では、中国85人、フィリピン56人について、ニューギニア29人、ビルマ28人と続いていました。戦場の中心は、中国大陸ということだと思えます。
- (4) 中国での戦死者は、ほとんど、どの時期でもありましたが、日中戦争勃発直後と、1944年以降の2回多い時期がありました。
- (5) 中国と違ってフィリピンと沖縄では戦死者が、1944年の終わり頃から1945年に集中していました。
- (6) ニューギニア、ソロモン、マリアナ等を始めとする太平洋上の島々での戦死者は1944年頃に多く、1945年になると少なくなっています。
- (7) インドでの戦死者は、1944年だけでした。

(8) 1945年8月15日より後で死んだ人が、337人中、40人もいました。終戦の後、戦病死だけではなく、たくさんの方が戦死していました。満州、中国、シベリアで多く、特に満州とシベリアでは終戦後の方が、戦死者が増えています。

3. 左上の表より、およそ1916年~1923年頃に生まれた人達が多く戦死していることがわかりました。兵士となった人たちが、この年齢層だったということでしょう。終戦の年には、22才~30才くらいの年齢の男の人が、少なくなっていたと思います。



4. 文献で調べたことから

- (1) 死亡年齢の最年長者は、ニューギニアで戦死した陸軍軍医少佐の人で、行年49才でした。軍隊には現役定限年齢というものがああり、陸軍少佐は、50~52才でした。
- (2) 死亡年齢の最年少者は、19才の3人でした。このうち1人は海軍で、朝鮮鎮海公傷死とかかれてありました。この人は海軍特別年少兵だと思えます。海軍は、一般の陸軍兵よりも高度な技術が必要なので、志願兵制度が重視されてきました。徴兵令発布後も、徴兵との二種とはなりましたが、主力は志願兵で、不足分だけを徴兵に頼っていました。しかし、徴兵の主体が陸軍で、海軍への徴兵割り当ては、思うようにできませんでした。そこで、海軍が要員増強のためにとったのが、海軍少年水兵制度でした。さらに昭和16年、海軍大臣官房機密の令達によって六兵種の志願兵の採用年齢を1年さげ、15才となりました。それが、海軍特別年少兵制度です。

残りの2人は、満州開拓青年義勇隊原隊と書いてありました。青年義勇隊とは、国民学校を卒業したばかりの農家の2、3男が訓練され、農兵隊として北満州に送られ、関東軍の要請で国境警備等に当たった人達のことです。昭和12年以降には、国策として、全国的に広く募集されるようになりました。

偶然かもしれませんが、3人とも終戦後に死んでいます。

- (3) ノモンハン事件(昭和14年8月)、ミッドウェー海戦(昭和17年6月5日)のように、よく知られている戦場で戦死した人もいました。しかし、初めて聞く中国の安徽省という地名が11回でてきました。この中の7回は安徽省貴地縣で、このうち4人が昭和14年12月16日の戦死でした。この日に、安徽省貴地縣で何があったのか知りたいと思い、数冊の本を調べましたが、見つけれませんでした。わかったこと

は1937年の廬溝橋事件の後、長江下流域の安徽省付近で、中国軍との間で、いくつかの戦闘があったことと、この日、陝西省、甘肅省、寧夏回族自治区を中心に、日本軍による中国国民党の“八路軍”への攻撃が行われたことです。

- (4) 満州の牡丹江省やシベリアでは、1945年8月15日以後の方が、戦死者が増えていることについても調べてみると「ソ連は…8月8日、対日宣戦布告し、…8月9日満州作戦を開始した。…それから1週間以内に、ソ連軍が満州深く進撃する中、日本は降伏決定を発表し、17日、日本からの直接の命令を受け、関東軍はハバロフスクで降伏文書に調印した。しかし満州や千島列島での戦闘は9月1日まで続いた。」とありました。このことと戦後の死者が多いことと関係がありそうです。

V 感想・課題

風化した墓石の見慣れない字や言葉（例：支那事變〜ニ叙シ、安徽省、兵站病院、聯隊、緬甸国）を一つ一つ記録していくのも大変でしたが、集めたデータを戦域別、死亡年順に整理して見やすく並べかえたりするのに思ったより時間がかかり、しんどかったです。大宮島は、グアム島に大宮山、大宮湾等の地名があるので、グアム島のことでないかと思いましたが確かめられませんでした。安徽省貴地縣の場所を始め、調べきれなかった地名もたくさん残りました。広陵町の軍人墓地についても、広陵町出身の軍人さん達だけなのか、また、墓石の形や並び方（墓地の入り口近くにまとめられている墓と、一般のお墓の中に混在しているものがありました）についても、旧村に古くから住んでいる人や墓石にかかわる仕事をしている人に話を聞くことができれば、もっとくわしく知ることができたと思います。

この研究をして、今まで知らなかったことを色々調べる事ができたし、何よりも、時々、一般のお墓の中にまじっていて、特にくわしくかかっているお墓、例えば「支那事変ニツイテ、大東亜戦争ニ参加、各地オ転戦、浜松方面、敵ノ艦砲射撃ニテ戦死」、「南海派遣第694部隊決死隊トシテ、ブーゲンビル島大山付近ノ戦闘デ、マラリヤニカカッテ、南海ノ果テニ散ル」、「20.8.9. ソ連軍ト戦闘、9.1. ソ連軍ノ武装解除オウケ、拉古第19作業大隊ニ編入サレ、ソ連ウオロシロフ地区に入り、S20.12月、同地区マンゾフカ収容所ニテ、伐採、建築、土工等ノ強行作業ニ服シ、S23.12.31. 特別措置法ニヨリ戦時死亡ス。」、「比島方面海戦ニオイテソノ乗艦特攻艦松ト共ニ永遠ニ洋心ニ没ス。嘆々壮烈。」、「満州国奉天省遼陽縣高城子西方一軒 太子河兵團渡河演習中ニ急性心臓衰弱ニヨリ殉職」等があり、それを読むと、若い軍人さん達の死を、とても身近に感じ、今まであまり興味のなかった歴史のことを、もっとくわしく知りたいと思いました。

VI 参考文献

- 。『5万分の1 奈良県広域道路地図』大阪人文社 1999年。『タウンマップ香芝』香芝市役所秘書広報課 2000年。北村恒信『戦前・戦中用語ものしり物語』光人社 1991年。内海愛子『ぼくらはアジアで戦争をした』梨の木舎 1986年。ジョン・キーガン『タイムズ・アトラス 第2次世界大戦歴史地図』原書房 1994年。森山康平『米軍が記録したニューギニアの戦い』草思社 1995年。椎野八束『太平洋戦争戦闘地図』新人物往来社 1996年。